

事業番号	22
------	----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	おちばの里親水公園管理業務				担当課	社会教育課	
事業期間	開始年度	平成16年度 ~	終了予定年度		担当係	社会教育係	
総合計画	めざすまちの姿	1 人が育つまち					
	目標	④ 子どもを健やかに育てる（社会教育）					
	成果指標	おちばの里親水公園利用者数（申請分）			中間目標（H27）	2,100人	最終目標（H32）
予算区分	一般会計	10 款 教育費	6 項 社会教育費	2 目 生涯学習推進費			
	細事業	284 生涯学習推進費					
位置づけ	関連計画						
	根拠法令						
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象（誰のため）	<input checked="" type="checkbox"/> 全市民 <input type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他						
事業の目的（何のため）	自然体験、親子のふれあい、仲間との交流の場を提供することにより、人づくり・仲間作りを推進する。						
内容（概要）	<ul style="list-style-type: none"> ・知波田地区自治会と委託契約を結び、清掃業務や管理業務をおこなっている。 ・キャンプ、バーベキューの利用における占用許可を電子申請及び書類による申請により行っている。 						
これまでの改善・見直しの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公園内に上水道を引くことができず、マンガンを多く含むため浄化水の利用も難しいことから、飲料水の確保が困難であった。そのため、飲料水確保の手段として、管理業務団体契約を結び、自動販売機を設置することで、対処することとした。 						

2. コスト

（単位：千円）

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	980	999	1,083	(内訳)
	決算	949	851		
財源内訳	国庫支出金				補助費等(修繕料) 113
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源				
職員人件費	1,156	1,046	1,492	人工	0.1 人

3. 事業の評価

事業の実施状況

		内容	単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率
活動指標	おちばの里親水公園利用者数	人	目標	1800	1800	1900	109%
			実績	2396	1954		
			目標				
			実績				
			目標				
実績							
実績・改善	平成23年度活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行為許可申請（キャンプ・バーベキュー）の受付・許可書の発行 ・公園管理業務 					
	課題・問題点となった事項	<ul style="list-style-type: none"> ・公園内に上水道を引くことができず、マンガンを多く含むため浄化水の利用も難しいことから、飲料水の確保が困難である。 ・駐車場の台数が少なく、事業開催時に利用者に不便をかけている。 ・自販機荒らしが2件起きた。 					
	どう対処したか	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料水確保の手段として、管理業務団体契約を結び、自動販売機を設置することで、対処している。 ・周辺の土地取得等は農地法により駐車場として利用できなかつたり、新たに土地の取得も難しいため現実的ではない。打つ手が無いのが現状である。 ・室内に自販機を入れてしまい、手出しできないようにした。 					
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガン除去の清掃手数料や修繕費を予算計上して、定期的に浄化槽の点検・清掃を行っている。 ・定期的に、職員が点検を行うことで、公園管理の充実を図っている。 					効果額 H24-H23 (千円)
自己評価	事業目的の達成状況	公園利用者数は目標を達成し、市民だけでなく、市外の方にも利用いただいている。自然体験、親子のふれあい、仲間との交流の場を提供するという事業の目的を満たしているといえる。					
	※必要性事業を廃止・休止したときの影響	公園の利用頻度は高く、生涯学習や体験活動の場としても広く利用されている。廃止されれば、そうした場所の提供の機会が減ってしまう。					
	判定	B 改善	事業内容の見直しが必要		事業主体	市	
	判定理由	公園の利用頻度は高く、生涯学習や体験活動の場としても広く利用されている。但し、社会教育課で管理する必要はあるかどうかは検討する必要がある。					
今後の方向性	警察や自治会、周辺住民により関心を、持ってもらうことで、地域で公園環境の保全自動販売機荒らしの阻止やを図っていけるようにすることが目標である。						